

飯山市の小沼箒を全国へ ～令和2年度の取り組みと展望～

飯山市立城南中学校 前澤 大介

1. はじめに

昨年、飯山市に赴任した事を機会に飯山市の小沼箒について調査を始めた。小沼箒は平成31年3月22日に長野県伝統的工芸品に指定され、飯山市のみならず長野県を代表する工芸品の一つとしての価値を認められた。昨年の調査活動では生産者の田中健吾さんをはじめ、小沼ほうき振興会の皆さん、下高井農林高等学校の皆さんなど、地域を挙げて技術の継承に努めていることや「小沼箒を全国へ広めたい」という思いをもって取り組まれていることを教えていただいた。今年度も小沼箒のその後の発展や変化を見ていきたいと思い、調査を継続して行った。

2. 調査内容

(1) 田中健吾さんより（昨年度と比較した今年度の変化について）

- ・コロナ禍により、生産をしてもほとんど売れなかった。「道の駅花の駅千曲川」や「飯山駅」に製品を置かせていただいたが、お客が少ないため目にしてもらう機会も少なかったのが残念。
- ・昨年から進展したという感じはなく、むしろ新型コロナウイルスが落ち着かない限りは難しい。
- ・下高井農林高等学校の生徒の皆さんに教えに行き、技術を学んでいただけて良かった。しかし、学んだ生徒さんも入れ替わってしまうため、毎年新しい生徒さんに教えることは体力的にも難しい。
- ・昨年は飯山市のふるさと納税で取り扱っていただけたが、今年はなくなってしまった。
- ・例年、近隣のスキー場からも注文があったが、今年はないのが残念。
- ・かつて、善光寺に700本出したこともあった。
- ・以前は近隣の学校からも注文があったので是非使ってほしい。また、広めてほしいと感じている。

田中さんは現在最も高い品質の小沼箒を生産できる方の一人である。この一年はコロナ禍の影響を大きく受け、高齢による体力の低下も加わり、苦しい現状を語ってくださった。新型コロナウイルスの終息を切に願い、多くの方々に小沼箒を広げていける日を待っている。

(2) 小沼ほうき振興会の活動（会長大森賢一さん、飯山市役所雇用ビジネス振興課上野啓輔さんより）

《小沼ほうきの継続に係る事業》

- ① 原材料の生産…会員個々に実施（播種、刈取り、乾燥、脱穀）
- ② ほうき作り講習会
（市主催、経費は市負担、長野県中小企業団体中央会との共催）
講師：田中健吾さん、篠原洋子さん、兼子明男さん 会場：十王堂
- ③ 長野県伝統産業振興会への継続加入及び会議への出席
- ④ 下高井農林高校ほうき班との連携



《小沼ほうきによるコミュニティビジネスに係る事業》

- ① 商品開発…パッケージ開発（包装のリニューアル）※現在進行中
新商品開発（箒、箒以外の開発）
→アイデアを振興会で検討し、長野県中小企業団体中央会の八木沼さんに委託し、商品化へ。
- ② 経理…会計担当者の採用。市からの補助金は約20万円。※事業報告は今後。

- ③ 販路開拓…長野県伝統工芸展への出店 ※松本市の井上百貨店で実施予定だったが中止
飯山市ふるさと納税への出品、リフト会社・寺院

《現在の取り組みと現状（大森賢一さんより）》

- ・現在は約 10 名の会員。月に 2 回程度、会員が集まり製作を行っている。
- ・以前は田中健吾さんからご指導をいただいていたが、高齢者が多いため同じような品質にすることはとても難しく、会員がそれぞれの工夫をしながら製作を行っている。



小沼地区で栽培されているホウキモロコシと

- ・箒を作る技術に加えて、材料となるホウキモロコシの出来具合が重要。しかし、良い時期に種を撒けなかったり、良い色でなかったりと難しい。
- ・販売する品質にすることに大変さを感じているが、今年度は会員で分担して製作し、戸狩スキー場に 12 本納品することができた。
- ・小沼地区では振興会に参加している方以外にも、個人的に製作をしている方もいる。

《今後の展望と大森さんの夢》

- ・大相撲の土俵で使う箒として選んでもらうことが夢である。そのためにはしなやかなホウキモロコシでなくてはいけない。まずは質の良いホウキモロコシを生産することを目指している。
- ・小沼地区には良い道具がたくさん残っているため、今後も製作を続けていける環境がある。大切に使いしていきたい。
- ・小沼箒の品質はとても高い。父が製作 30 年以上前の箒もまだ使っている。外国製の箒とは違う使い勝手の良さを、多くの方に知ってほしい。
- ・後継者不足は深刻な問題であるが、後継者を増やすためには販売による収入が大切。作っても配るような状態では難しい。まずは、知名度を上げていかないといけない。



小沼地区で使用されている道具。多くの道具それぞれに使用用途と使用方法があり、振興会の皆様は学び続けている。

3. 今年度（2020 年）の販売数の変化について

現在、「道の駅花の駅千曲川」と飯山駅 1 階の「信越自然郷飯山駅観光案内所」で販売を行っている。田中さんのお話のように、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、観光客が減少していることから昨年度に比べて厳しい状況となった。



道の駅花の駅千曲川(左)

飯山駅観光案内所(右)

「道の駅花の駅千曲川」では、農産物直売所で小沼箒の販売を行っている。従業員の方からお話を伺うと、多く売れる物ではないため、ここ1年間で販売数が増加したとは感じられないが、訪れる方の中には「これは小沼箒ですか」と尋ねてくる方がいたそう。様々な発信やイベントによる反響があったという確証まではいかないが、小沼箒に興味を示す方が訪れたことは確かである。

飯山駅の「信越自然郷飯山駅観光案内所」での販売数次の通りである。

年度	販売本数	販売額
2018 年度	129	157.400
2019 年度	66	149.060
2020 年度(2月11日現在)	32	71.000

※2019年度は長野県伝統工芸品として登録されたため、販売単価が上がっている。

昨年度の販売数に対し、今年度の販売数は半減している。2020年7月23日～2021年1月31日まで行われた「信越自然郷 手しごと展」では、多くの方に実際に小沼箒を見て、触れていただき販売数を伸ばすことができたようだが、やはり新型コロナウイルス感染拡大による観光客の減少の影響が見られる。



飯山謹製堂(飯山観光局)のショッピングサイトでは、飯山市の特産品の販売を行っている。その中で、小沼箒(小沼うき)の取り扱いがある。販売数はまだあまりないようである。



4. おわりに

今年度は新型コロナウイルスの影響を強く受け、様々な活動が中止や制約を受けてしまった。その為、小沼箒を広く知っていただく機会を失い、多くの方々の発展を期待する思いに反して非常に残念な1年となってしまった。何より、生産しても販売による利益が出せないことは生産をされている方々にとって大きな痛手であった。一方で、「信越自然郷 手しごと展」では多くの方の目に触れ、小沼箒の良さを認めていただくことにつながった。このような企画による成果が見られることから、今後も様々なイベントや発信を行うことで小沼箒はこれまで以上に知名度を高め、全国各地に広がることが期待できるのではないかと感じた。

発展するための最も大きな課題は後継者の育成である。調査を進めていく中で、現状を維持することが難しい現実があることを感じた。小沼箒を守り発展させようと力を尽くされている方々がいることを、これからの飯山市を担う子どもたちに伝えていくことで、そういった方々の思いが後世に受け継がれていくことが、飯山市の教員である私にとっての使命であるように感じた。大森賢一さんが語ってくださった「大相撲の土俵に小沼箒」が実現することを目指して、今後も小沼箒が全国に広がっていくことを願っている。

〈参考文献・資料〉

- ・月刊中小企業レポート (2019年7月号) ・田中健吾さんより取材 ・大森賢一さんより取材
- ・飯山市役所雇用ビジネス推進課 上野啓輔さんより取材
- ・信越自然郷飯山駅観光案内所での取材 ・道の駅花の駅千曲川での取材